



## 東日本大震災 被災者への 本学の支援

3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々に対して哀悼の意を表すとともに、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。被災地の子どもたちに、一日も早く笑顔が戻ることを願っております。

兵庫教育大学では、在学生と卒業生・修了生の安否をいち早く確認するとともに、被災地への支援を行っています。募金による本学の児童・生徒・学生、教職員、PTAからの約130万円、吹奏楽部によるチャリティーコンサートの収益金などを義援金として寄付しました。

地元加東市と協力して、学生や教職員のメッセージを記したこいのぼりを多数送りました。被災地の人々や子どもたちの元気喚起になることを願ってのものです。学生の中には、早くから自発的にNPO等に参加して、被災地にボランティアとして赴いている者もおります。その報告会を催しましたが、被災地の惨状のリアリティを痛感するとともに、ボランティア学生の「たくましさ」に希望と誇りを見出したりもしました。

特筆すべき支援活動としては、富永良喜教授をはじめとする臨床心理を専門とする教員と修了生が、「チーム兵庫教育大学」として岩手県の学校で子どもたちの心のケアや教職員の研修に当たっていることがあります。阪神・淡路大震災以降、大災害後の子どもの心のケアが注目されるようになりました。本学はその研究と教育に精力的に取り組んできており、その成果が生かされているわけです。

被災地支援は大学としての当然の責務であることはいまでもありませんが、学生・教職員の学びの機会でもあります。

支援活動は長期的に行う必要があります。臨床心理士チームを継続的・定期的に派遣するとともに、今後も教員養成大学の特性を生かした支援を行うべく、児童・生徒の遊びや学習の支援プログラムを作成して、学生チームを夏休みなどに派遣することを予定しています。

かじさてつや  
学長 加治佐哲也